

開館15周年記念
小林修写真展
「司馬遼太郎『坂の上の雲』の視点」



2022年10月18日(火) - 11月27日(日)

休館日：10月24・31日(いずれも月曜日)

開館時間：午前9時 - 午後6時30分(入館は午後6時まで)

場所：坂の上の雲ミュージアム 2階ホール 観覧料：無料

坂の上の雲ミュージアム

SAKA NO UE NO KUMO MUSEUM

〒790-0001 愛媛県松山市一番町三丁目20番地 TEL089-915-2600 FAX089-915-3600
<https://www.sakanouenokumomuseum.jp/> E-mail:saka-museum@city.matsuyama.ehime.jp



開館 15 周年記念

小林修写真展

「司馬遼太郎『坂の上の雲』の視点」



ヘルシンキ（諜報戦の舞台となった）



サントペテルブルクの水兵
表紙写真：沖の島西方沖（日本海）

小林 修（こばやし おさむ）

1966年生まれ。1990年、立教大学英米文学科卒業。同年、朝日新聞社に入社。出版写真部で「アサヒグラフ」「週刊朝日」などの撮影を担当。展覧会に「司馬遼太郎さんの歩いた道」展（画家・安野光雅氏との二人展、新宿紀伊國屋書店・丸善丸の内店 2007年）、「小林修写真展 司馬遼太郎『街道をゆく』の視点」（フジフィルムスクエア 2019年、富士フィルムフォトサロン大阪 2022年）、など。写真集に「司馬遼太郎『街道をゆく』の視点」（朝日新聞出版）、「司馬遼太郎『坂の上の雲』の視点」（同）。2003年、2017年、2018年、2019年、日本雑誌写真記者会賞最優秀賞を受賞。現在、朝日新聞出版写真映像部長。

写真家の小林修氏は、「週刊朝日」の連載「司馬遼太郎シリーズ」の写真を16年以上にわたって担当し、小説『坂の上の雲』をはじめ、司馬遼太郎氏の作品世界を写真で表現し続けています。

小林氏は、『坂の上の雲』と関わりの深い様々な場所を訪ね、現代の情景から『坂の上の雲』の世界を感じられる写真を数多く撮影してきました。主人公の秋山好古・真之兄弟、正岡子規のふるさとである松山をはじめ、横須賀の記念艦「三笠」や東京・根岸「子規庵」、さらにはロンドンやサンクトペテルブルクなど、実際に『坂の上の雲』の舞台となった場所を歩いてきました。小林氏の写真を見ると、時間と空間を超え、明治という新しい時代を歩んだ登場人物たちの息遣いや足音が聞こえてくるようです。

坂の上の雲ミュージアムでは開館15周年の記念に、小林氏が『坂の上の雲』をテーマに世界各地で撮影した写真作品を展示し、現代へとつながる小説『坂の上の雲』の新しい魅力を感じていただくための特別展示を開催します。



桜の松山城



東大赤門

坂の上の雲ミュージアム

SAKANOUE NO KUMOMUSEUM

〒790-0001 愛媛県松山市一番町三丁目20番地 TEL 089-915-2600 FAX 089-915-3600
E-mail:saka-museum@city.matsuyama.ehime.jp URL:https://www.sakanouenokumomuseum.jp/

- | | | | | | | |
|------|----------------------------|---------------|---|-------|---|------|
| アクセス | ・JR松山駅から [所要時間約10分] | 市内電車（道後温泉行） | — | 大街道下車 | — | 徒歩2分 |
| | ・道後温泉から [所要時間約10分] | 市内電車（全線） | — | 大街道下車 | — | 徒歩2分 |
| | ・松山空港から [所要時間約30分] | リムジンバス（道後温泉行） | — | 一番町下車 | — | 徒歩2分 |
| | ・松山観光港から [所要時間約30分] | リムジンバス（道後温泉行） | — | 一番町下車 | — | 徒歩2分 |
| | ・松山自動車道松山インターから [所要時間約20分] | | | | | |

